

「出題の意図」

選抜区分	2026年度（選抜区分：一般選抜 前期日程） 地域創生学群 地域創生学類（科目名：課題論文）
<p>1. 課題論文における出題の背景と求める能力</p> <p>本課題の出題にあたっては、「地域創生を考え実行していく際に必要な知識に関連すること」、「地域創生学群の学生に備えておいてほしい能力に関わる内容を含むこと」、および「統計資料と社会的議論の双方を扱うことができること」、の三点を選定基準とした。その結果、公益社団法人日本図書館協会『日本の図書館 統計と名簿 2024』および一般社団法人日本出版インフラセンター「JPO 書店マスター管理センター 店舗数推移」から、図書館数・職員数・貸出数、書店数などの客観的データを示す資料を採用した。あわせて、新聞記事「書店を国や自治体が支援することに『賛成』79%、書店の減少『不安』は63%（読売世論調査）」を提示し、社会的議論の状況を示した。</p> <p>設問は、「以下に示す資料1および資料2を参考に、公共図書館と民間書店をめぐる状況を分析した上で、地域社会の望ましい将来像とそれに向けた対応策について、あなたの考えを400字以内で述べなさい。」とした。</p> <p>本設問では、図書館や書店が地域の文化・知識基盤として果たす役割に着目し、地域社会の変化を多面的に捉える力を評価することを意図した。具体的には、①統計資料を読み取り、社会状況を客観的に分析する力、②提示された資料を根拠として論理的に考察する力、③公共（図書館）と民間（書店）の役割を踏まえ、地域社会の望ましい将来像と具体的な対応策を構想する力、の三点を主に評価することを目的とした。</p> <p>2. 解説</p> <p>本設問では、提示された資料を基に公共図書館と民間書店をめぐる状況を整理し、地域社会における知識や文化の基盤のあり方について考察することを求めた。</p> <p>資料からは、公共図書館に関する統計として図書館数、専任職員数、貸出数などの推移が示されている。また、民間書店については店舗数の減少傾向が示されており、地域における書店の存在が縮小している状況が読み取れる。さらに新聞記事では、書店の減少に対して不安を感じる人が多いことや、国や自治体による書店支援に賛成する意見が多数を占めていることが示されている。</p> <p>受験生には、これらの資料から読み取れる状況を踏まえ、図書館と書店がそれぞれ果たす役割や相互の関係性について整理した上で、地域社会の望ましい将来像を提示することを求めた。その際、単なる現状の説明にとどまらず、地域社会において知識や文化に触れる機会をどのように維持・発展させていくかという観点から、具体的な対応策を示すことが期待された。</p> <p>評価にあたっては、まず資料から読み取れる事実を適切に整理し、その内容を根拠として論理的に議論を展開できているかを重視した。特に、図書館と書店の役割をそれぞれ踏まえながら、地域社会における知識や文化の拠点としてのあり方を考察し、将来像と具体的な対応策を結び付けて述べている答案を高く評価した。一方で、資料の内容に十分触れず一般的な読書論に終始するものや、現状の説明のみで具体的な提案に至っていない解答も見られた。本設問は、提示された資料を基に地域社会の課題を多面的に捉え、根拠に基づいて将来像と対応策を構想する思考力を評価することを目的としたものである。</p>	